

海洋生物資源学部 海洋生物資源学科

○ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、各授業科目、アドミッション・ポリシーの対応

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	各授業科目	アドミッション・ポリシー
<p>①自然と社会の共存にかかわる課題を多面的に考察し、適切に対処するための方策を立案できる。</p>	<p>①世界と地域の歴史や文化あるいは経済や社会の課題を多面的に考える能力を身につけるため、一般教育科目を配置する。</p>	<p>一般教育科目： 基礎科目 自由科目 A 群 (上記科目の詳細はシラバスに記載)</p> <p>卒業要件： 基礎科目 15 単位以上、自由科目 A 群 10 単位以上修得すること。</p>	<p>海洋環境や海洋生物資源を取り巻く様々な問題に強い関心を持ち、科学・技術を通してその解決に貢献する意欲を有する学生、海洋生物資源学を学ぶために必要となる理科、数学および英語などの基礎学力を有し、自主的な学習習慣を身につけている学生、他者と協力しながら学ぶためのコミュニケーション能力を身につけている学生の入学を求めています。</p>
<p>②科学・技術の進歩の中で、絶えず新たな知識と技術の修得に努め、問題の適切な解決方法を選択して実践できる。</p>	<p>②初年次において、大学での学修スキルと自主的な課題探求姿勢を身につけることを目的として「海洋生物資源フィールド演習」を開講するとともに、専門科目の修得に必要な数学と、自然科学の基礎学力を向上させるための専門基礎科目を配置する。</p>	<p>専門基礎科目(必修)： 生物学Ⅰ・Ⅱ 化学Ⅰ・Ⅱ 数学基礎 物理学Ⅰ 科学者および技術者の倫理 生物学実験 化学実験</p> <p>専門応用科目(必修)： 海洋生物資源フィールド演習Ⅰ・Ⅱ (上記科目の詳細はシラバスに記載)</p> <p>卒業要件： 専門基礎科目(必修)を 16 単位、専門応用科目(必修)を 3 単位修得すること。</p>	<p>入学者選抜の基本方針： 一般選抜における入学者の選抜は、大学入学共通テストおよび個別学力検査等の成績ならびに調査書の内容を総合して行います。学校推薦型選抜における入学者の選抜は、小論文および面接の成績ならびに調査書および自己推薦書の内容を総合して行います。総合型選抜における入学者の選抜は、2 段階選抜により行います。第 1 次選抜は書類により熱意と適性の評価、第 2 次選抜はプレゼンテーションおよび面接の成績ならびに自己推薦書および調査書の内容を総合して行います。</p>

<p>③社会のニーズに応えながら、新たな価値を創造して持続的な成長につなげることができる。</p>	<p>③2年次において、海洋生物資源学を体系的に学修するための基礎となる専門応用科目(必修科目)を集中的に配置する。さらに、特定の専門領域に偏らずに、海洋環境の保全、海洋生物資源の育成と利用およびそれらの社会科学基盤について学際的・総合的に学ぶことができるように、2年次から3年次にかけて専門応用科目(選択科目)を配置する。</p> <p>④講義を通して修得した知識を応用する能力を身につけるため、実験・実習科目を配置する。特に、豊かな自然と文化に恵まれた若狭地域をモデルとして、山川里海の相互関係や科学・技術が地域に果たす役割を通して理解するための科目を開講する。</p>	<p>専門応用科目(必修)： 生化学 分子生物学 藻類学概論 大気・海洋学概論 漁業制度論 基礎演習 魚類学 水産資源利用学 微生物学概論 海洋化学</p> <p>専門応用科目(選択)： 「水圏生物の生命現象の解明」7科目 「水圏環境の保全と修復」9科目 「水圏生物資源の有効利用」8科目 「海洋生物資源に関わる幅広い視野の涵養」11科目 「実験・実習・演習科目」9科目 (上記科目の詳細はシラバスに記載)</p> <p>卒業要件： 専門応用科目(必修)を19単位、専門応用科目(選択)を36単位以上修得すること。ただし、専門応用科目(選択)の「水圏生物の生命現象の解明」から6単位以上、「水圏環境の保全と修復」から8単位以上、「水圏生物資源の有効利用」から8単位以上、「実験・実習・演習科目」から5単位以上を修得すること。</p>	
<p>④地域・国際社会の一員として責任感を持って他者と協働しながら、豊かな人間性を醸成できる。</p>	<p>⑤4年次に各研究室に所属して取り組む「卒業論文」と「専攻演習」では、担当教員の個別指導を通して、計画を作成して実践する能力と結果を検証して発表する能力を身につける。</p>	<p>専門応用科目(必修)： 専攻演習 卒業論文 (上記科目の詳細はシラバスに記載)</p> <p>卒業要件： 専門応用科目(必修)を10単位修得すること。</p>	

海洋生物資源学部 先端増養殖科学科

○ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、各授業科目、アドミッション・ポリシーの対応

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	各授業科目	アドミッション・ポリシー
<p>①自然と社会の共存にかかわる課題を多面的に考察し、適切に対処するための方策を立案できる。</p>	<p>①世界と地域の歴史や文化あるいは経済や社会の課題を多面的に考える能力を身につけるため、一般教育科目を配置する。</p>	<p>一般教育科目： 基礎科目 自由科目 A 群 (上記科目の詳細はシラバスに記載)</p> <p>卒業要件： 基礎科目 15 単位以上、 自由科目 A 群 10 単位以上修得すること。</p>	<p>海洋環境や海洋生物資源を取り巻く様々な問題に強い関心を持ち、科学・技術を通してその解決に貢献する意欲を有する学生、海洋生物資源学を学ぶために必要となる理科、数学および英語などの基礎学力を有し、自主的な学習習慣を身につけている学生、他者と協力しながら学ぶためのコミュニケーション能力を身につけている学生の入学を求めています。</p>
<p>②科学・技術の進歩の中で、絶えず新たな知識と技術の修得に努め、問題の適切な解決方法を選択して実践できる。</p>	<p>②初年次において、大学での学修スキルと自主的な課題探求姿勢を身につけることを目的として「海洋生物資源フィールド演習」を開講するとともに、専門科目の修得に必要な数学と、自然科学の基礎学力を向上させるための専門基礎科目を配置する。</p>	<p>専門基礎科目(必修)： 生物学Ⅰ・Ⅱ 化学Ⅰ・Ⅱ 数学基礎 科学者および技術者の倫理 生物学実験 化学実験 海洋生物資源フィールド演習 (上記科目の詳細はシラバスに記載)</p> <p>卒業要件： 専門基礎科目(必修)を 16 単位修得すること。</p>	<p>入学者選抜の基本方針： 一般選抜における入学者の選抜は、大学入学共通テストおよび個別学力検査等の成績ならびに調査書の内容を総合して行います。学校推薦型選抜における入学者の選抜は、小論文および面接の成績ならびに調査書および自己推薦書の内容を総合して行います。総合型選抜における入学者の選抜は、2 段階選抜により行います。第 1 次選抜は書類により熱意と適性の評価、第 2 次選抜はプレゼンテーションおよび面接の成績ならびに自己推薦書および調査書の内容を総合して行います。</p>

<p>③社会のニーズに応えながら、新たな価値を創造して持続的な成長につなげることができる。</p>	<p>③2年次において、海洋生物資源学を体系的に学修するための基礎となる専門応用科目（必修科目）を集中的に配置する。さらに、特定の専門領域に偏らずに、海洋環境の保全、海洋生物資源の育成と利用およびそれらの社会科学基盤について学際的・総合的に学ぶことができるように、2年次から3年次にかけて専門応用科目（選択科目）を配置する。</p>	<p>専門応用科目（必修）： 藻類学概論 分子生物学 大気・海洋学概論 生化学 漁業制度論 増養殖統計学 I 水産増養殖学概論 海洋生物学 魚類生理生態学 動物生理学 水族遺伝育種学 I 基礎科学英語 専門科学英語</p> <p>専門応用科目（選択必修）： 「先端育成科学」4科目 「ゲノム応用科学」4科目 「養殖情報科学・社会科学」7科目</p> <p>専門応用科目（選択）： 「増養殖研究の為の幅広い視野の涵養」8科目 実験・実習・演習科目： 必修9科目 選択3科目 （上記科目の詳細はシラバスに記載）</p> <p>卒業要件： 専門応用科目（必修）を26単位、専門応用科目（選択）を27単位以上修得すること。ただし、専門応用科目（選択必修）の「先端育成科学」から3単位以上、「ゲノム応用科学」から4単位以上、「養殖情報科学・社会科学」から6単位以上修得すること。「実験・実習・演習科目」は、必修10単位修得すること。</p>	
<p>④地域・国際社会の一員として責任感を持って他者と協働しながら、豊かな人間性を醸成できる。</p>	<p>⑤4年次に各研究室に所属して取り組む「卒業論文」と「専攻演習」では、担当教員の個別指導を通して、計画を作成して実践する能力と結果を検証して発表する能力を身につける。</p>	<p>専門応用科目（必修）： 基礎演習 専攻演習 卒業論文 （上記科目の詳細はシラバスに記載）</p> <p>卒業要件： 専門応用科目（必修）を11単位修得すること。</p>	